

日
整

はつらつ!



●目次

■モンゴル人准医師 日本研修閉講式 柔道整復術を母国で役立てたい!!	1
------------------------------------	---

私たち柔道整復師は全国各地で活躍しています

●公開健康講座	8
---------	---

北海道 第42回北海道学術大会札幌大会特別講演 福井県 県民公開講座 京都府 普通救命講習会 和歌山県 テーピング講習会 大阪府 第2回府民健康づくり講座 健康柔体操 香川県 県民公開講座 スポーツ外傷・障害の予防とスポーツテーピングについて

●少年柔道大会	15
---------	----

青森県 第28回青森県少年学年別柔道・形競技選手権大会 群馬県 第22回日整全国少年柔道大会 群馬県選手選考会 千葉県 第4回千葉県接骨師会杯争奪千葉県少年柔道大会（第22回日整全国少年柔道大会千葉県大会）（第1回千葉県接骨師会少年柔道形競技会） 和歌山県 第25回和歌山県柔道整復師会少年柔道大会 香川県 文部科学大臣杯争奪第22回日整全国少年柔道大会県予選・第3回少年柔道形競技大会県予選 第37回日整全国柔道大会四国大会 第3回日整全国少年柔道形競技四国予選 佐賀県 第28回中学生柔道錬成大会 熊本県 第4回熊本県小学生学年別柔道大会

●ボランティア・その他	20
-------------	----

茨城県 がん患者支援チャリティーイベントに本会も後援 石川県 第62回金沢百万石まつり救護活動 香川県 香川県浜田知事を表敬訪問 佐賀県 佐賀県総合防災訓練へ参加 熊本県 広報活動 公式Facebook ページ運用

■学術シリーズ（第17回）スポーツ選手の腰痛に対する柔道整復的アプローチ	24
--------------------------------------	----

■本の紹介 本の紹介『M-Test 経絡と動きでつかむ症候へのアプローチ』	27
---------------------------------------	----

■第7回日整柔道「形」講習会が開催される	28
----------------------	----

■平成25年度日整学術大会一覧	29
-----------------	----

■日整文芸	30
-------	----

■編集後記	31
-------	----

■表紙解説	32
-------	----

●Web Page 日整ホームページ <http://www.shadan-nissei.or.jp/>

トップページの最新情報、健康情報誌「日整はつらつ!」VOL.12
または「日整はつらつバックナンバー」から入り当ナンバー広報誌を
クリックしてご覧ください。QRコードもご利用ください。



柔道整復術を母国で役立てたい!!

モンゴル人准医師が研修成果を報告

広報部



公益社団法人日本柔道整復師会（以下、日整）は、モンゴル人准医師の柔道整復術日本研修閉講式と懇親会を平成25年8月9日（金）、東京ドームホテルにおいて関係各位の来賓を迎え開催した。

この日本研修は、日整が2006年から NGO の支援事業と、JICA の委託事業として取り組んでおり、モンゴル国において柔道整復術を教える立場になる人材を受け入れて、技術と知識を習得させることを目的としている。

研修を終えたのは、オユンバートル・ダリルチュルン准医師（写真左）、エンフタイワン・トゥブシンバヤル准医師（写真中央）、ダシュラウダン・ボロルトゥーヤ准医師（写真右）の3人。研修先は日整会員の接骨院、整骨院およびこの事業に理解を示していただいている整形外科の病院や医院。3人は、2ヶ月間にわたり骨折や脱臼、捻挫、靱帯損傷の治療法と整形外科的疾患などについて学んだ。閉講式では研修成果をスライドで説明しながら報告した。流暢な日本語、そして学習意欲と高い習得力に会場内は暫し感動の世界に引き込まれていた。その余韻にひたる中、3人の准医師に JICA 国内事業部地球ひろばの芳賀克彦所長と工藤鉄男日整会長から受講証明書が授与され、称賛の拍手が送られた。

引き続き懇親会が開かれ、多数の来賓から祝辞の中で、閉講式での3人の熱心な報告と日本柔道整復師会の活動に対して、深い感銘を受けた旨と祝意が示された。

新しい世界の扉を開く



▲挨拶する工藤会長

閉講式は午後3時から国際部の本間琢英部員の司会で始まり、木山時雨副会長の開式の辞により厳かに進んだ。挨拶に立った工藤会長はご来賓に対して感謝の意を表した後「モンゴル国の准医師の皆さんには、柔道整復術を母国で生かしていただきたいという思いを込めて日本の各地で研修をしていただきました。日本で生まれた柔道整復術が“新しい世界の扉を開く”という意味で、ご協力をいただいた外務省とJICAの皆様方にご成果をご披露し、お礼を申し上げたいという執行部の熱い思いで閉講式を開催いたしました」と趣旨を述べた（要旨別掲）。

母国に帰っても JICA に報告を

来賓の祝辞として JICA の芳賀所長は、3人の准医師に労いの言葉をかけた後「最も暑い時期での研修でしたが、大変充実した研修だったと伺っております。指導者の候補者の方々に実際に日本で



▲挨拶する芳賀所長

研修を受けていただくということにつきましては、まさに柔道整復術の指導普及をモンゴル人のみにより可能となる、というこのプロジェクトの目標の達成に大きく寄与する重要な部分と考えております。日本で学ばれたことは帰国後に復習され、その後はできるだけ多くの方々に

研修の成果を伝えていただきたいと考えております。また、この研修がどのように役立ったのか、どういう場面で活用できたのか、といった成果を将来ぜひ JICA にも報告いただけたらと思っております」と述べ、母国モンゴルでの活動に期待を込められた。

研修地で知事を表敬訪問

これまでの経緯について国際部の富永敬二理事から報告があった。その説明によると、本プロジェクトは2006年～2008年の3年間、外務省の「日本 NGO 連携無償資金協力（以下 N 連）」を得て、モンゴル国で「日本伝統治療（柔道整復術）普及事業」を実施し、更に2009年10月から2011年3月まで、JICA の「草の根技術協力事業（支援型）」の支援を受け「日本伝統治療（柔道整復術）普及プロジェクト」を実施した。

そして、これらの実績が認められ2011年9月から5年間「JICA の草の根技術協力事業（パートナー型）」の支援を受け「日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト」を現在実施中である。この「パートナー型」のプロジェクトでは、モンゴル国内において「柔道整復術の指導・普及がモンゴル人のみにより可能となる状態になること」を目標としている。その指導者候補生はモンゴル国における基礎講習、臨床実習のみならず、日本の医療機関において2ヶ月間の研修を行い、柔道整復術の習得に勤しんでいるとのこと。

今回の研修では、公益社団法人香川県接骨師会、公益社団法人茨城県接骨師会の尽力により、日本の ODA の一環として行っている本事業が、香川県、茨城県において実施されていることを、知事はじめ、県民にも知っていただくことを目的として表敬訪問を行ったことを紹介した。なお第2回目の日本研修については、本年10月下旬から12月中旬までを予定している旨の報告があった。



◀ 説明する富永理事



研修成果報告

氏名：オユンバートル・ダリルチュルン
 年齢：22歳 女性 准医師、看護師
 所属：モンゴル国立健康科学大学医療技術大学
 学歴：2011年モンゴル国立健康科学大学看護
 学校卒（2008-2011）

【要旨】

足の損傷をエコーで学ぶ

私は市川整骨院と東京医科大学茨城医療センターでご指導いただきました。市川整骨院では、たくさんの方の骨折や軟部損傷について学ぶことができました。私の研修の目的は足の損傷について理解を深めることでした。足関節捻挫はモンゴルでも多くみられる怪我です。今回の研修では毎日の治療の中で症状の変化を見ることができました。特に印象に残ったのはエコーで靭帯の損傷を観察できたことです。エコーはモンゴルの医療でとても必要なことだと感じました。レントゲンと違いこれは靭帯を動かしながら観察することがいいと思いました。もうひとつ持ち運びできるエコーにも驚きました。今回の研修では往診も受けました。モンゴルでは村の医者には往診しますのでとても勉強になりました。

東京医科大学茨城医療センターでは接骨院ではあまり見られない重傷患者さんがたくさん来院されていました。特に足のケガが多く、手術する患者さんが多かったです。手術後の入院患者さんの包帯交換を毎日行いました。

今回の2ヶ月の研修で市川整骨院、東京医科大学茨城医療センターの先生たちに心から感謝しております。



氏名：ダシュラウダン・ボロルトゥーヤ
 年齢：23歳 女性 准医師、看護師
 所属：第3産院
 学歴：2011年モンゴル国立健康科学大学看護
 学校卒（2008-2011）

【要旨】

上腕骨外科頸骨折の治療を体験

私は美浦整骨院と東京医科大学茨城医療センターで研修しました。美浦整骨院では竹藤先生のご指導でいろいろなケガを勉強しました。なかでも上腕骨外科頸骨折の症例が印象的でした。症例は65歳の女性ですが、毎日のように治療をしていました。時間と共に症状を比較することができてとても勉強になりました。

リハビリで大事なことは骨折したところだけでなく、ほかの関節の動きを良くすることが大事だとわかりました。私の研修が終わる頃にはこの患者さんは整骨院にかからないまでに回復していました。

東京医科大学茨城医療センターでは、先生たちの毎朝のミーティングと患者さんの回診、手術後の治療とリハビリを毎日見学しました。左橈骨骨折と大腿骨頸部内側骨折の手術を見学しました。骨盤から骨を採って脛骨に移植した手術もあり、助手をしました。



入院するときの診察から退院するまでのことを見学したことがとても勉強になりました。美浦整骨院と東京医科大学茨城医療センターの優しい人たちに心から感謝しています。

氏名：エンフタイワン・トゥブシンバヤル
年齢：25歳 男性 准医師、看護師、理学療法士

所属：モンゴル国立健康科学大学医療技術大学 教員

学歴：2009年モンゴル国立健康科学大学看護学校卒（2006-2009）

2011年モンゴル国立健康科学大学看護学校理学療法士コース（2010-2011）

【要旨】

骨折・脱臼の整復、固定、後療を学ぶ



香川県のなみお接骨院、埼玉県の栗原整形外科で約2ヶ月研修させていただきました。

なみお接骨院では今まで習っていない股関節脱臼の整復法を教えてくださいました。

またベンネット骨折といろいろな骨折の整復固定法について学びました。そのほか、後療法の中で用いられる全身のテーピングの仕方を教えてくださいました。香川県接骨師会の学術の先生方がなみお整骨院で勉強会を開催してくれまして、いろいろな症例を持ってきて教えていただきました。

埼玉県の栗原整形外科では、膝の前十字靭帯の損傷について院長先生が細かく教えてくださいました。骨折の整復、固定、ギプス巻きなどをやらせていただきました。

モンゴルで多いお年寄りの圧迫骨折の固定ですが、日本ではキャストギプスを使用しますがモンゴルでは、どういうふうにするかということを考えてみたいと思います。毎週火曜日には早朝の勉強会があります。いろいろな症例がありますのでたくさん勉強をさせていただきました。

香川県接骨師会会長の石原先生、なみお先生と一緒に香川県知事の浜田恵造様に表敬訪問をさせていただきました。今回、骨折と脱臼の、整復固定もそうなんですけど、後療法について多くを学ぶことができました。これからもモンゴルでもリハビリテーションに関わるような知識をさらに深めたいと思います。

受講証明書を授与



研修成果を報告後、3人の准医師にJICA国内事業部地球ひろばの芳賀克彦所長と工藤鉄男日整会長から受講証明書が授与され、称賛の拍手が送られた。閉講式は厳粛の内に萩原正和副会長の閉式の辞により終了した。

【閉講式ならびに祝賀会来賓出席者（順不同）】

衆議院議員	逢沢 一郎様
衆議院議員鴨下一郎様秘書	小松崎 彰様
参議院議員	武見 敬三様
参議院議員	中川 雅治様
参議院議員	有村 治子様
外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課上席専門官	藁谷 栄様
駐日モンゴル国大使館一等書記官	
スフバートル・ボロルチメグ様	
自由民主党東京都連幹事長	内田 茂様
自由民主党東京都連	高島なおき様
自由民主党東京都連	中屋 文孝様
独立行政法人国際協力機構国内事業部地球ひろば所長	芳賀 克彦様

独立行政法人国際協力機構国内事業部	
地球ひろば地域連携 NGO 連携担当次長	洲崎 毅浩様
地球ひろば地域連携課市民参加協力課	毛利 花絵様
独立行政法人国際協力機構 JICA 横浜市民参加協力課	
	中野 幸昌様
株式会社共同通信社代表取締役	古賀 尚文様
株式会社共同通信社取締役情報企画本部長	
	小林 秀一様
株式会社共同通信社情報企画部次長	土屋 出様
行政書士	佐藤 信義様
全国地方新聞社連合会相談役	古谷 堯彦様
国際連合大学事務局長	秋葉 正嗣様
学校法人花田学園東京有明医療大学理事長	
	櫻井 康司様
医療法人社団宏友会栗原整形外科院長	栗原 友介様
産経新聞東京本社企画業務室部長	石垣 良幸様

日整の活動を世界中に知ってもらおう !! 共同通信社が全力を挙げて協力へ

称賛で盛り上がった懇親会

引き続き多数の来賓を迎え懇親会が開催された。工藤会長は挨拶の中で、開発途上国での柔道整復術の必要性を説き、情熱と真心をもって普及事業を展開している旨を述べた。国際交流とその活動については、国際部の萩原隆部長と根来信也部員が説明した。



▲萩原国際部長



▲根来部員

乾杯の挨拶に立った共同通信社の古賀尚文社長は「現地のニーズに合った最適な技術協力であり、まさに安倍内閣が今進めております海外経済協力、この典型的な実施事例であり、高く評価されるものと確信をいたしております。私ども共同通信は、加盟社として全国に北は北海道から南は沖縄タイムズまで新聞社がたくさん

あります。こうした加盟社の新聞紙面を活用いたしまして、日本柔道整復師会の素晴らしい活動をもっと国内に広報していかなければならないと思っています。おります。



▲挨拶する共同通信社社長 古賀尚文氏
また、我が社の海外ネットワークもフルに使用しまして海外にも活動を知らしめていくことは、とても大切なことだと思います。私ども共同通信社は全力を挙げて皆様の活動にご協力することをお誓い申し上げます」と述べられ、海外協力活動のますますの発展とモンゴル国と日本の友好関係の更なる発展を祈念して、声高らかに祝杯を挙げた。

多くの来賓の方々より、閉講式での3人の熱心な報告と日本の文化が生み武士道精神を持った柔道整復術の発展を期する使命を背負っている日整に対して、異口同音に称賛の声があり、盛り上がった懇親会となった。





工藤会長の閉講式挨拶（要旨）

所期の目的は国益にあり

日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクトの事業につきましては、外務省のODAとしてJICAの皆様大変お世話になって推進されております。お陰をもちまして5年計画の中で3年目になります。モンゴル国の准医師の皆さんには、日本の伝統治療である柔道整復術を母国で生かしていただきたい、という思いを込めて日本の各地で研修をしていただきました。日本で生まれた柔道整復術が“新しい世界の扉を開く”という意味で、ご協力をいただいた外務省そしてJICAの皆様方に研修成果をご披露しようという執行部の熱い思いで本日の閉講式を執り行いました。本日は共同通信社社長の古賀様をはじめ多くのご来賓の方々がお見えになっております。大変お忙しいところ、ご臨席をいただきましたことに対しまして、心からお礼を申し上げ敬意を表します。

3名の准医師の皆さんには、モンゴルの国でお医者さんにかかれな人たちのために、日本で生まれた伝統技術をもって初期治療の役目を果たしていただきたいと思っております。日本の江戸時代には接骨術というものが日本国民の健康を維持してきたという歴史があります。モン

ゴルの国はこれから新しい国として、この伝統技術を国内のいろいろなところで提供することによって、モンゴルの国民皆さんが素晴らしさを楽しんでいただけるようにするのも3名の役目です。これで終わったということではなく、日本でご教示をいただいた先生たちのご恩を忘れず、これからもさまざまな意見交換をしてください。もし母国の医療現場で困ったときには電話やインターネットでご教示していただきながら、新しい情報や技術をどんどん吸収してください。

柔道整復術は、開発途上国においても大変役にたつものだと思っております。これからも日本柔道整復師会は国民が求める技術の研鑽に日々努め、質の高い新しい技術を世界に発信していく努力をさせていただきます。我われは常に国益を考えてこの技術を世界に提供することによって、少しでも役に立つことを基本精神として事業を展開して参りたいと思っております。この事業達成のために、外務省そしてJICAの皆様、マスコミの皆様をはじめご来賓の皆様にはより一層のご支援とご指導を切にお願い申し上げます。

更なる友好親善関係の促進に

本日は多数の関係者の方々がご列席のもとで、かくも盛大にモンゴルに対する草の根技術協力プロジェクト日本研修の閉講式が開催されたことにつきまして、心よりお祝いを申し上げます。また、本閉講式に本日お招きいただきまして厚くお礼を申し上げます。また、この機会を利用いたしまして本プロジェクトに日頃よりご尽力いただいております公益社団法人日本柔道整復師会の関係者の皆様にも厚くお礼申し上げます。

また、先日、工藤様が同会の会長にご就任されたことに対しましても心よりお喜び申し上げます。

さて、モンゴルに対する本プロジェクトの活動の一環として、このたび3名のモンゴルの関係者の方々が2ヶ月間の日本での研修を無事に終了いたしました。トゥブシンバヤルさん、ダリルチュルンさん、ボロルトゥーヤさん、本当にお疲れ様でした。また、日本柔道整復師会の皆様におかれましても、研修医に対し熱心にご指導とお世話をいただきまして本当にありがとうございました。

最も暑い時季での研修でしたが、大変充実した研修だったと伺っております。本プロジェクトにおきましては、いくつかの活動のコンポーネントがございます。指導者の候補者の方々に実際に日本で研修を受けていただくということにつきましては、まさに柔道整復術の指導普及をモンゴル人のみにより可能となる、というこのプロジェクトの目標の達成に大きく寄与する

重要な部分と考えております。

今回、日本で学ばれたことをぜひ帰国後に復習され、その後はできるだけ多くの方々に研修の成果を伝えていただきたいと考えております。また、この研修がどのように役立ったのか、今後どういう場面で活用できたのか、その成果を将来ぜひ JICA にも報告いただけたらと思っております。

日本とモンゴルは昨年に関交樹立40周年を迎え今年は41年目に当たります。JICA は日本政府の国際協力の方針に基づきまして、日本国内のさまざまな機関のご支援とご協力をいただきながら従来よりモンゴルに対しましては技術協力プロジェクト事業、有償無償資金協力事業、ボランティア事業など、さまざまな協力事業を実施させていただいております。

その中でもこの草の根技術協力事業につきましては通常の政府関の事業と異なりまして、日本国内の団体から事業をご提案いただくというところに特徴がございます。この点から申し上げますと、このたびの協力はまさに公益社団法人日本柔道整復師会の皆様からのご提案があって初めて成立した協力でございます。

また、このモンゴルに対する、このような協力の熱意に対しまして心から感謝を表明させていただきます。このような協力が日本とモンゴルの更なる友好親善関係の促進に繋がることを心から期待する次第でございます。



私たち柔道整復師は 全国各地で活躍しています。

健康づくり(公開健康講座)、スポーツボランティア
防災・救護・介護など

公開健康講座

北海道

第42回北海道学術大会札幌大会 特別講演

耐用年数は約30年以上

「弛みのこない人工股関節の開発」

講師 旭川医科大学病院病院長 松野丈夫先生

はじめに松野先生は、人工股関節について「人工股関節置換術（以下 THA）を行っても良い年齢（適応年齢）と、THA の耐用年数は何年くらいだと思われますか？」と2つの質問を投げかけられ「その答えと理由を本日の講演の中で述べたいと思います」と話され、講演がスタートしました。

以下はその要旨。

人工股関節置換術～ THA

正常な股関節は円い形をしています、末期になると軟骨と円い骨頭もなくなりますので、そのような人は人工股関節にせざるを得ないと思います。実際には股関節の周りにはかなり厚い関節包と強固な靱帯があります。人工股関節の手術を行うにあたり手術法がいろいろありますが、原則は関節包と靱帯をほとんど切り離してしまわなければなりません。ですから手術後5～6週間の間は人工股関節の周りには強固な靱帯も関節包もほとんどない状態となり、一番多い合併症として人工股関節が手術後に脱臼するということになります。



▲講演する松野先生

変形性股関節症とは何か？

股関節と膝関節を比べると、同じように大きな関節ですが一番問題になるのは体重がかかる関節軟骨の表面積が問題で、膝の場合は表面積が股関節に比べて非常に広がっていますから、体重がかかっても比較的広い面積の関節軟骨で受けることができます。股関節は球関節ですから体重を受ける点が2～3 cm²くらいで受けることになります。ですから関節に問題がある場合には正常と比較するとどんどん軟骨がすり減ってきます。また、日本人の特徴として女性の左の股関節に発症するのがほとんどです。

臼蓋形成不全と手術療法

臼蓋形成不全があって、股関節がだんだん悪くなってくる前に治せばよいのですが、放置すると軟骨が末期の状態になってきます。ほんの少し関節軟骨がすり減っている前関節症、少し進むと少し軟骨がすり減ってくる初期となり、それがもっと進むと軟骨がほとんどなくなる進行期へ進み、最終的には軟骨が全くなり骨

が壊れる末期になります。

人工股関節を入れる時期は、昔は末期でなければ入れてはいけないという考え方がありましたが、今は進行期の初期に近くてもかなりの高齢者であれば行ってもよいと学会で言われています。北大・旭川医大の手術の基本方針として、若い人で軟骨の痛んでない人の場合には骨を切って治すことをやっています。

骨切り術

骨切り術について、北大・旭川医大は早期に骨を作るような手術をするのが方針です。CE角は 25° 以上が正常ですがいろいろな文献やエビデンスがあり、おおむね 16° 、私たちは 15° で区切りをつけこれ以上は経過観察とし、これ以下の場合には手術を勧めることにしています。最近流行っている寛骨臼回転骨切り術は寛骨を円く切り抜き回すというもので、テクニカル上やさしくありませんが誰でも習えば行える手術であるということから、日本全国で一番流行っている方法です。

キアリという手術方法は現在北大では行っていませんが旭川医大では行っています。寛骨を切って中に押し込み屋根をつくるのですが、力が弱い術者にはきつい術式になります。人工股関節が適応で年齢が若い人には人工股関節を行うまで時間を稼ぐためとしても勧められます。旭川医大ではこれら3つの術式を使い分けて手術を行っています。

とにかく早期に処置を行った方がよく、若い方は手術をせず、股関節や膝関節周囲の筋力トレーニングを行って進行を防止することは勧められますが、最悪なのは鎮痛消炎剤を投与して頑張らせることで、その結果、末期の変形性股関節症になってしまうことです。痛みは防御反応ですから、取り除いてしまうと本来防御しなければならない状態が無くなるため無理をしてしまい、そのうちに軟骨が痛んでしまい壊れてしまいます。本日の講演のタイトルとは違ってくるかもしれませんが、最終的にはTHAを行うことなく一生を過ごさせることが股関節外科医の使命であります。

歴史～チャンレーのTHA

まともな人工股関節を初めに作った人はチャンレーという先生です。それ以前は北大や札幌市立病院などで特に若い人には関節の固定術を行っていました。固定術自体は良い手術で股関節の痛みはなくなります。しかし動きが悪くなります。歩くのは不自由ではないのですが、女性の場合排泄時や足を開かなければならないときなどに不自由を感じるようになります。もう一点、術後若いときは良いのですが年を取ってくると一つの関節が動かせないせいで、膝や反対側の股関節・腰などに負担がかかり通常の人より悪くなりやすく痛みも増強します。50～60代になるとこのような症状改善のため受診された場合、人工股関節を入れるようにしています



がまだ行っている病院は少ないです。現在、関節固定術より若くても人工股関節を入れた方が患者さんの将来は幸せかと思います。

関節軟骨を何で入れ替えるか？

人工関節は関節ですから何かで入れ替えるのですが、臼蓋の凸側の方はポリエチレンが一般的で金属も使っています。大腿骨の方はまだ金属が一般的です。ポリエチレンのカップをセメントで固定し、下のステムもセメントで固定します。これがチャンレー式の人工股関節です。これを日本に持ち帰ったのが昨年亡くなられた私の師匠になる信州大学教授の寺山先生で、日本のチャンレーと言われておりました。

私はハリスというボストンに居る先生よりいろいろな知識を得て、後ほど出てくるハイブリッドの人工股関節や4-Uなどの開発に至りました。チャンレーはいろいろな実験を繰り返し、材質、骨頭の大きさなどもいろいろ考え、その結果チャンレーの人工股関節が出来上がり現在も生き延びているのです。

たどり着いた地点（結論）

私が研修医のころ、1980年代にチャンレー式やそのほかいろいろな人工関節に関するディスカッションを行った際、人工関節のカップを骨に入れる際の角度は何度が最適か？骨頭径は何mmが良いのか？セメントのテクニックはどうしたら良いか？セメントを使わない人工関節はどうか？などいろいろなディスカッションを行

った結果、結論としてセメントのテクニックやカップ・ステムを何度で入れるかは問題ではなく、ポリエチレンの性能が悪いと少し動いただけですり減ってしまうことが唯一の問題であるという結論に達しました。

人工股関節の歴史・弛みのメカニズム

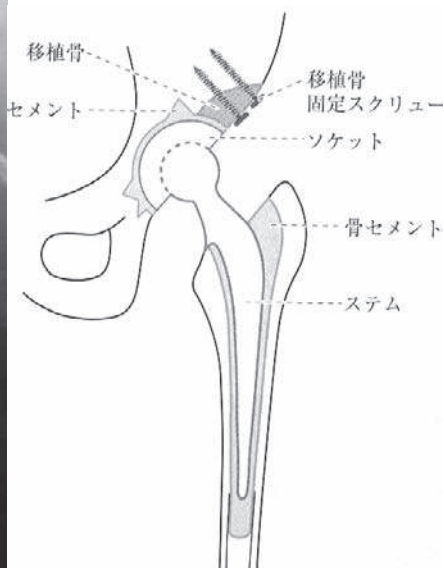
昔、人工股関節は弛んで隙間があいたり、折れたり、骨が溶けたりというトラブルがたくさん出て、当時の研究で、その原因は骨セメントにあるとされていました。

その後、私も1986年にTHAが弛んだ組織の周囲を偏光顕微鏡で見た際に、そこに見えている異物はセメントの粉であると勘違いし、この存在が弛みに関与しているという論文を書いてしまいました。

そこで、セメントを使わない人工関節を作ろうということで、チタンの合金などのセメントレスの人工関節をどんどん作り出したのですが、その人工関節がセメントの人工関節よりも早く弛んでしまったのです。調べてみるとポリエチレンに原因があるということが段々とわかってきたのです。結論は1ミクロン以下のかかなり小さなすり減った粉が人工関節を弛ませるのです。

しかし、膝の人工関節はこういうような弛みを起こすことは非常に少なく成績が良いのです。股関節の場合はポリエチレンの質が悪いと粉が1ミクロン以下になり、骨を吸収する細胞に働きかけて骨を溶かすということに繋がります。そして弛みに繋がります。

ほとんどのメーカーが性質のいいポリエチレンを作ろうようになってから、人工股関節はほとんど弛まなくなってきました。そのほかに消毒法なども昔は間違っていました。出来たポリエチレンのカップを消毒する際、普通の空気中でラディエーションをかけて消毒をしているのですが、それがポリエチレンを劣化させることが分かったのです。これでポリエチレンはほとんどすり減らなくなりました。



人工股関節の機種

ポリエチレンと金属で十分だと言いましたが、そのほかに金属・金属（メタル・メタル）の人工関節もありますが、あまり成績が良くありませんでした。最近の学会のメインピックスは「きしみ」です。金属・金属の宿命といいますか、立ち座りあるいは歩いたときにキシキシと音がし、患者さんにとってはストレスになるなどトラブルが起こっているというのが現状です。次にセラミック・セラミックでも悪くはありませんが、稀に強い衝撃により粉々に割れてしまうという欠点があります。私自身の結論としてはポリエチレンの質が良くなってきたので、ポリエチレンと金属で十分ではないかと思います。

人工股関節置換術

西日本はセメントを使い、東日本はセメントは使いません。北海道はセメントを使います。北大は九大から来ていて、旭川も九大系列ですからセメントを使っています。札幌医大は東大系の大学なのでセメントを使わないことが多いと聞いています。

だいたい55歳以上はハイブリッドを使い、若い方はセメントを使わないほうがいいという意見もありますので、セメントを使わない人工関節を入れています。今ではセメントの使用を55歳前後で使い分けていますが、大きな差はないと思います。固定力は両方ともありますし、問題はポリエチレンで、ポリエチレンさえよければ、何歳で何を入れようが全く弛まないというのが現状です。

最近の臨床的問題

次はMIS（最小侵襲手術）です。MISの唯一の良いところは傷が小さい、治ってからの見た目がいいことです。これは大事なことです。ありますが、僕たちはMISと普通の長い皮切りとランダムに比較しましたところ、全く差はありませんでした。若い女性は少ないですが、人工関節は特に気になる方はMISで、それ以外の方は要望がない限りは行っていません。これがMISの結論です。

THA4-Uの開発

4-Uの開発に関しては、岡山のナカジマというプロペラ会社と一緒に開発しました。アメリカ製と違い4-Uは日本人に適した形であり、数千例の症例がありますが成績は良好です。2008年に人工関節4万、人工骨頭5万、旭川医大でも年間で約200例、4-Uは10数年経ち1,500例を超えて弛んだ症例はほとんどありません。

弛みを防止するために考慮すべきこと

弛みを防ぐことが第一ですが、機種を選ばないといけません。それからテクニックは術者がかなり重要になってきます。THAの15年生存率は95%、今は30年以上弛まないということになります。昔は若い方にやってはいけないと言われていましたが、今は40代、50代でも全く問題はありません。まず弛まないということと、仮に弛んでも再置換術という入れ替えの手術が非常に楽になっています。また感染に対する処置や入れ替えの技術を持った先生でないとはいけません。そのため人工関節の手術を1時間以内に終われるような術者が好ましいと思います。またリハビリの施設があるなど、諸々のことを考えながら腕の良い股関節外科医にかかり手術をしていただきたいと思います。

人工股関節置換術 Q & A

最後に答えとなりますが、年齢適正はありません。赤ちゃんは無理ですが、20代、30代でもやっていいと思います。耐用年数はだいたい30年以上ですので、例えば40歳でやれば70歳以上は十分、人工股関節は持ちます。古い考えだと、耐用年数は10年～15年だったので、60歳以上しかやってはいけないと言われていましたが、今は全くそういうことはありませんので、そういう患者さんがいたら若い人でもぜひ、しかるべき病院に紹介していただきたいと思います。

（広報員 高山訓正）

福井県

県民公開講座

平成25年6月16日(日)、午前9時から(公社)日本柔道整復師会第35回北信越学術大会福井大会が、福井商工会議所コンベンションホールにて開催されました。当日は好天にも恵まれ、北信越ブロックをはじめ全国から来賓をお招きすると共に、多くのブロック会員に参加いただきました。また、県民公開講座には300名を超す多くの一般県民の方が聴講されました。

学会前日の15日(土)に福井パレスホテルにて行われた開会式は、梶谷好晃実行副委員長の開会の辞、萩原正大会会長の挨拶で始まり、ご多忙の中ご出席賜った、西川一誠福井県知事、稲田朋美内閣府特命担当大臣、山本拓衆議院議員、高木毅衆議院議員、山崎正昭参議院副議長はじめ多くのご来賓よりご祝辞をいただきました。また砂子隆一実行委員長が全国各地から出席されたご来賓の皆様にお礼と歓迎の言葉を述べました。

学会当日は、協賛研究発表「骨粗しょう症による脊椎圧迫骨折」、会員発表(学術研究発表5題・実技発表1題)に続き、介護セミナーとして「柔道整復師と介護保険について」のテーマで(公社)日本柔道整復師会保険部介護対策課藤田正一先生・三谷誉先生より、機能訓練指導員として現場ですぐに実践できる運動実技を含めた必要な Skill についての講演がありました。

午後からは講師にフィギュアスケートの浅田



▲講演する湯浅教授

真央選手らを指導した中京大学スポーツ科学部教授湯浅景元先生をお迎えし、『ひざ・腰・肩が楽になる一生健康7秒体操』のテーマで県民公開講座を実施しました。

著書も多くテレビなどでもおなじみの湯浅先生の人気は高く、会場内は一般来場者や会員で溢れんばかりの大盛況。講座では関節のストレッチや筋肉トレーニングなど、椅子に座ったままできる体操や身体の負担を少なくする動き方のコツなど具体的に指導があり、帰ってからすぐに家庭生活で取り入れられることも多く、来場者は大満足の様子。最後に宮下治由実行副委員長による閉会の辞で学術大会を終了しました。

今大会を主管した本会では、公益社団法人移行後初の開催であり県民公開講座実施も初めてでしたが、県民公開講座には多くの一般県民のご来場もいただき内容も日々の健康増進に役立つもので、参加された方には有意義な時間となったことと思います。大変お世話になりました関係各位に深謝申し上げます。

(広報員 熊田克典)



▲協賛研究・会員発表者

京都府

普通救命講習会

平成25年6月30日(日)、午前9時から京都府柔道整復師会会館5階大会議場において普通救命講習会が開催されました。講師には京都市東山消防署警防課救急係の玉置守救急係長をお迎えし、38名の参加がありました。

講習では新しくなった2010年(平成24年度版)ガイドラインの講義を

いただきました。講義では、胸骨圧迫が最重要、6歳くらいまでの乳児に対してもAEDを使用できるなど、新たなことを教わりました。

実技研修では、京都学生消防サポーターの京都橋大学生、尾矢さん、小松さんにもご協力とご指導をいただきました。受講者は3班に分かれて心肺蘇生法の演習を、実際さながらの緊張感をもって練習をしました。

本会では定期的に救命講習会が開催されています。緊急事態にも対応できるように、定期的に参加して意識を高めておきたいものです。



▲講義する玉置係長



▲実技研修

(広報員 中川稔貴)

和歌山県

テーピング講習会

平成25年6月16日(日)、和歌山ビッグウエーブ武道場にて毎年恒例の一般市民向けテーピング講習会を開催した(=写真)。今回は、小・中学校の養護教諭、部活の顧問、和歌山大学の運動部マネージャー、一般の方々に参加していただいた。午前9時から約2時間30分、応急処置とテーピングおよびダイナミックストレッチ



について実技を中心に講習を行った。

応急処置はRICE処置の方法、テーピングはテープの種類や用途、基本的な貼り方の説明をし、負傷頻度の高い足関節、膝関節、指関節のテーピングについて行い、ストレッチについては、種類や効果を説明し、実際に何種類かのダイナミックストレッチを体験してもらった。

今回の参加者は、初めての方が多く、興味はあるが普段はテープを巻くチャンスがないものの、生徒や選手に巻いてあげたいとの思いで参加された方が多く、初めはぎこちない手さばきだったが、後半になるとポイントを習得し手際よく巻いていた。また、テーピングについてはもちろんのこと、スポーツ障害についての質問もたくさんいただき、受講者の熱心さをうかがい知れた有意義な講習会だった。

(広報員 出崎素之)

大阪府

第2回府民健康づくり講座 健康^{やわら}柔体操

平成25年7月13日(土)午後3時から、大阪柔整会館5階大ホールにおいて、第2回府民健康づくり講座「健康^{やわら}柔体操」を開催いたしました。この講座は、(公社)大阪府柔道整復師会が広く府民に開放している講座の一つであります。

はじめに、前田真司理事より参加者に対して挨拶があり、その後、健康柔体操指導者である寛健史会員(福島支部)、山田豊会員(鶴見支部)の指導により、40名の参加者に健康柔体操を楽しんでいただきました。

この体操の歴史は古く、柔道の創始者である嘉納治五郎先生が、昭和2年に考案された「精力善用国民体育の形」が原型であります。その



▲指導する覧会員

形に改良を加えて近年、(公財)柔道整復研修試験財団が、健康増進を図る有効手段として、今日まで普及発展してきたものです。体操を広めることにより院外でも、柔道整復師が高齢者に対して、健康増進に寄与でき、予防医学の分野でも積極的に社会貢献できるように期待します。

この体操は、関節・筋肉系の柔軟性を保ち、呼吸器系や循環器系の強化が期待できる体操で、各整骨院・接骨院などの小スペースでも行え、また器具も使わないため老若男女を問わず楽しくできる体操です。ぜひ健康柔体操を、各市区町村の地域住民の方々に広く普及されることを願っています。

参考 健康づくりアニメやわら体操

<http://members.jcom.home.ne.jp/setukotu/image/list.html>

公益社団法人 大阪府柔道整復師会ホームページに JUDO THERAPY TV ch02にも動画で紹介しております

http://www.osaka-jyusei.or.jp/judo_therapy_tv/yawarataisou01_menu/



▲柔体操実技

(広報員 山田 豊)

香川県

県民公開講座

スポーツ外傷・障害の予防と スポーツテーピングについて

平成25年7月6日(土)、午後3時から本会2階多目的ホールにて開催された。講演者は本会浪尾敬一学術部長と実技担当としてモンゴル国立健康科学大学付属医療技術大学教員エンフタワン・トゥブシンバイル准医師によって行われた。

モンゴル国の人口は300万人といわれ、日本の約4倍の面積があり、首都ウランバートルに約150万人が住み、あとは地方に分散して生活している。地方では作業中に落馬して骨折・脱臼するケースが多く、こんな状況の中、現地では柔道整復術が重要視されている。本会の講演はモンゴル現地に派遣された浪尾会員の講義と指導風景が紹介されたが、特に感じたことは、その生徒たちの講義を受ける姿勢にある。まさに真剣で、すぐ患者を診なければいけないという使命感に満ちている。

本題のテーマの内容は「スポーツ障害について対処療法だけでは完治しない。反復して発生する疼痛はどこかの関節に可動域制限がある。ある部分では動き過ぎるし、これがストレスとなりオーバーワークで疲労が蓄積される。これによってスポーツ障害となる。これをどう予防しながら疼痛を取るか」筋力の強化法、テーピング療法などを具体的に紹介し、実技では膝関節のテーピングをトゥブシンバイル准医師が行った。模範となるような見事な技術であった。今後も私たちは県民公開講座を開催し、よいた



▲トゥブシンバイルのテーピング実技

くさんの県民に受講を勧めていきたいと考えている。本講座終了の後、高松市内のホテルにて歓迎会が行われ、本会石原会長からトッブシン

バヤル准医師に記念品を贈呈した。

(広報員 武田雄児)

少年柔道大会

青森県

第28回青森県少年学年別柔道・ 形競技選手権大会

桜前線も日増しに北上しつつ、まだ所々周辺に春残雪の下、平成25年4月14日(日)青森県武道館(弘前市)において、本会主催の標記大会を開催しました。

当日、会場周辺には早朝にかかわらず大勢集合し、開門と同時に各地区の柔道スポーツ少年団、家族、応援団が一斉に会場入りし、活気溢れる状況でした。

本大会は、日整全国少年柔道大会青森県代表予選会であり、県内各地区から参加し、27団体総勢430名の少年少女選手団が日頃の練習の成果を発揮しました。

岡本幸治副会長の開会宣言に始まり、佐藤金一大会会長より挨拶、ご来賓より激励のご祝辞をいただきました。続いて昨年度優勝の五所川原柔道少年団より優勝旗返還、成田正人審判長より試合上の注意事項等の説明があり、鶴田町柔道少年団の太田朝陽選手の正々堂々とした力強い選手宣誓が行われました。

その後、6試合会場に分かれて団体戦の部、個人戦は3年、4年、5年、6年の男子女子ト



▲選手宣誓

ーナメント形式で実施され、各試合場では選手、監督、コーチ、応援団が一体となって声援が飛び交い白熱した試合が繰り広げられました。

団体戦の部の決勝は、五所川原柔道少年団と剛柔館藤田道場が双方勇猛果敢に対戦し、五所川原柔道少年団が2年連続の優勝を飾りました。

この2チームは、7月20日開催の「第21回東北少年柔道大会」に青森県代表として出場します。

個人戦の部では、各大応援団の声援もあり、選手同士気迫溢れる試合が展開され、勝って喜び、一方負けて悔し涙を流して取り組む子供たちに感動しました。

試合結果、選考会議により次の青森県代表選手団が決定され、10月14日開催の「第22回日整全国少年柔道大会」に出場します。

☆選手名

4年生 増田彪冴(鶴田町柔道少年団)

5年生 葛西大悟(中里誠心塾)

笹森翔夢(鶴田町柔道少年団)

6年生 平山才稀(五所川原柔道少年団)

渋谷 蓮(剛柔館藤田道場)



▲知事賞

また、前大会から形競技会が開催され、今回県内各地区から7組14名の選手が出場しました。「投の形」の稽古の成果を発揮するべく演武が行われ、大観衆の会場内は静寂した緊張感の

中、「取」と「受」を柔道基本とする礼節を重んじた正確な「投の形」を披露し、会場内からは大きな拍手が送られました。

競技会選考の結果、優勝、準優勝の2チームが7月20日開催の「第2回東北ブロック会少年柔道形競技会」に青森県代表として出場します。

優勝 鶴田町柔道少年団

「取」大船瑞季、「受」佐々木そら

準優勝 藤崎町柔道スポーツ少年団

「取」佐藤風翔、「受」工藤洸優

朝から熱戦が繰り広げられた試合会場も全競技を終え、戦績発表、表彰式へと進められ成功裏に終了いたしました。

最後に岡本副会長より講評があり、公益事業の一環として県民の皆様に柔道を通じ、心身の健全な育成と少年柔道の振興に貢献できたことと、本大会運営にあたり大会役員、競技委員、関係各位他皆様のご理解ご協力いただいたことにお礼と感謝を述べ、閉会宣言をして大会終了いたしました。

(広報員 佐々木良太)

群馬県

第22回日整全国少年柔道大会 群馬県選手選考会

本会は6月9日(日)、前橋市民体育館柔道場で、第22回文部科学大臣杯争奪・公益社団法人日本柔道整復師会(以下、日整)全国少年柔道大会の県選手選考会を開催した。試合は午前9時30分から開始。県内の小学4年生から6年生、総勢58人が参加して熱戦を繰り広げた。各学年の上位に入った選手の中から、日整全国少年柔道大会への出場者5名が選ばれた。日整全国少年柔道大会は、毎年10月、体育の日に東京の講道館で開催される。

5選手を決定

試合後に行われた全国大会出場選手選考の結果、4年生は田代雄飛選手、5年生は射羽陸・武井佑磨両選手、6年生は丸山和隼・小林優大両選手を群馬県代表に選抜。群馬県チームとして全国大会に出場する。



▲日整全国大会出場選手

(広報員 永井 毅)

千葉県

第4回千葉県接骨師会杯争奪 千葉県少年柔道大会 (第22回日整全国少年柔道大会千葉県大会) (第1回千葉県接骨師会少年柔道形競技会)

平成25年6月16日(日)、船橋アリーナにおいて本会主催、(公社)日本柔道整復師会・千葉県柔道連盟・千葉県柔道道場連盟・船橋市柔道連盟後援、千葉県柔道整復師協同組合協賛により標記の大会が、34団体395名の少年少女が参加し盛大に開催された。

この大会は柔道を通じて青少年の心身の健全な育成を目指す、本会の公益事業として毎年開催されている。

開会式で岡本会長は「私どもの会は600余名の会員を有し、県下業界では唯一公益法人として認定された団体で、接骨院・整骨院として県民皆様の健康福祉のお手伝いをしております。

また本大会の開催をするなどさまざまな機会、青少年が将来的に立派な大人になるよう、



▲日整全国大会出場選手



▲開会式

柔道を通じて心身の健全な育成に尽力しています。

本日は父の日です。選手の皆さん！勝敗は別にして精一杯頑張ることが何よりのプレゼントとなります。素晴らしい指導者のもとに励んだ日頃の厳しい稽古の成果を十分に発揮し“最後まであきらめない”をモットーに頑張ってください」と挨拶された。

大会は、団体戦男子の部・女子の部、形競技会、個人戦と順次進み、手に汗握る熱戦を展開。それぞれの部門の順位が決定し、最後に第22回全国少年柔道大会代表が決定した。

なお、救護ブースでは迅速かつ適切な応急救

護が施され（幸い重篤な負傷者もなく）、健康相談コーナーでは本会の学術部員が、ギャラリーとして訪れた一般市民多数の相談に親切に対応していた。

（広報員 渡辺 勇）

和歌山県

第25回和歌山県柔道整復師会 少年柔道大会

平成25年6月16日（日）、和歌山ビッグウェーブにて標記大会が開催された。

来賓として、仁坂吉伸和歌山県知事、門博文衆議院議員、新土居仁昌毎日新聞社和歌山支局支局長、谷口久雄財団法人和歌山県柔道連盟会長が出席された。

本会の原正和会長の挨拶の後に、和柔整柔道倶楽部の丸山菜那選手、宮崎久志選手が堂々選手宣誓をし、大会が始まった。今回の大会は、



▲形演武をした尾崎功慎くん、中山結夢さん

表 彰 者

団体戦 男子の部	優 勝	明心館関本道場
団体戦 女子の部	優 勝	植村塾
形競技会	優 勝	(取) 大鷲ほのか (受) 向井正太 流山市柔道会
個人戦 四年生の部	優 勝	武田知士 (誉武館椿井道場)
	準優勝	佐久間大輔 (鴨川柔道クラブ)
個人戦 五年生の部	優 勝	村山 豪 (紅柔道少年団)
	準優勝	釘宮陽樹 (下志津柔道クラブ)
個人戦 六年生の部	優 勝	田中裕大 (NPO 法人かずさ柔道塾)
	準優勝	飯塚大貴 (野田柔道会)

* 4年生優勝選手・5年生および6年生の優勝・準優勝選手は、日整全国少年柔道大会に千葉県代表選手として出場します。

前年度優勝チームが参加しておらず、どのチームにも優勝のチャンスがあり、白熱した戦いが繰り広げられ、高学年の部は、九度山柔道クラブAが初の栄冠を勝ち取り、全国への道を開いた。

また、日整全国少年形競技会出場のため、滝川柔道場の中山結夢さん、尾崎功慎くんの両名が「投の形」の演武を披露してくれた。
大会結果は次のとおりです。

・高学年の部

優勝…九度山柔道クラブA
2位…更生館道場A
3位…貴志川スポーツ少年団A
松江少年柔道クラブA

・低学年の部

優勝…更生館道場A
2位…健心館畠中道場A
3位…練心館A、真風塾A

(敬称略)

県下各地域から、低学年の部30チーム、高学年の部45チーム（総勢343名）の子供たちが出場し、父兄の方々もビデオを片手に我が子の応援に大奮闘でした。

今回、柔道精神・マナーを理念と目標として大会運営に臨みましたが、大きな問題もなく、無事終了しました。



▲日整大会に出場する九度山柔道クラブA

(広報員 出崎素之)

香川県

文部科学大臣杯争奪 第22回日整全国少年柔道大会県予選・ 第3回少年柔道形競技大会県予選

平成25年6月16日(日)、午前9時から(公社)香川県接骨師会2階・多目的ホール柔心館道場にて本試合が開催された。石原誠大会会長の挨拶、松本裕司柔道部長より審判上の注意が述べられた後に形予選が開始された。審判員の見つめる中、県内から選出された4チームの選手たちが「形」を競い合った。優勝は栗林柔道スポーツ少年団(日下・二宮)で四国予選出場が決定した。2位は、宇多津体協チーム2名が選ばれた。

続いて少年柔道大会の試合が開始された。試合の結果は4年山下(牟礼)、5年花崎(白鳥)、前田(飯山)、6年小山(宇多津)、竹下(栗林)選手が選出され、講道館で行われる日整全国柔道大会に出場が決定した。公益社団として、より一層の公益性のある活動が望まれる中、私たちは少年柔道大会を主催し、その指導、育成、



▲石原会長挨拶



▲形競技審査

救護の充実が求められる。本会は青少年たちのために柔道教室などを開き、同時に県下の柔道指導・救護活動が続けている。当日、モンゴルから派遣されて来日しているトゥブシンバヤル准医師が日本の少年柔道に強い関心を持っており、本試合会場を見学した。モンゴル相撲は、ご本人も経験があり、真剣な眼差しで試合風景を見つめていた。

第37回日整全国柔道大会四国大会 第3回日整全国少年柔道形競技 四国予選

平成25年7月14日(日)、午前11時から徳島県立中央武道館にて標記大会が開催された。まず少年の形競技四国予選は(一社)高知県柔道整復師会小川八十一会長によって開会宣言があり、続いて(公社)香川県接骨師会石原誠大会会長が挨拶を述べた。競技上の注意は(社)愛媛県接骨師会大川健介副会長より述べられた。今回3チームが出場した。結果は香川県日下篤・二宮勇大選手が優秀賞に選ばれ、10月14日東京で行われる全国大会に出場が決定した。愛媛・高知がそれぞれ2位となった。

続いて第37回日整全国柔道大会・四国大会が開催された。試合結果は高知県が優勝し2位は香川県となった。優秀賞は多田慎吾選手が選ばれ、功労賞は10回出場矢野充茂、5回出場松本孝広選手が表彰された。



▲形競技四国代表者

(広報員 武田雄児)

佐賀県

第28回中学生柔道錬成大会

平成25年5月19日(日)、県総合体育館で当会主催の中学生柔道錬成大会を開催した。

本大会は、子供たちの健全育成と地域貢献を目的に始まった大会で、県内中学34校から男子209名・女子43名の計252名が出場した。楠本利巳理事の進行により古澤均事業部長の開会宣言に続き、富永敬二会長より「今年度最初の県レベルの大会であり、正々堂々と悔いのない試合を期待しています。また勝敗を離れても柔道をとおして友情を深めていただきたい」と挨拶があった。

少子化の影響や体育祭などの行事と重なったこともあり今回は出場選手も若干減少したが、会場は関係者・マスコミ・保護者に包まれ、好試合が続いた。

また、ボランティア委員手塚憲一部長ほか4名が試合前のテーピング処置や試合中の怪我に



▲錬成大会会場 東日本大震災義援金箱



▲復興義援金を富永会長(左)より佐賀善意銀行へ手渡す

対し適切な対応に当たった。

昨年に引き続き大会受付と試合会場には、東日本大震災義援金箱を設置し呼びかけを行い、微力ながら被災地の方々の力となって託されることを祈りながら、集まった金額と我われ県柔整会からの補填分との合計を、復興支援義援金として佐賀新聞社の佐賀善意銀行へ預託した。

(広報員 小嶋利博)

熊本県

第4回熊本県小学生学年別柔道大会

平成25年4月14日(日)、山鹿市総合体育館において標記大会が開催され、県内より約760名の少年少女が参加し激しい熱戦が繰り広げられた。1年生男女混合の部では女の子同士が決勝まで勝ち上がり、会場を盛り上げる一戦となった。ほかの学年も素晴らしい熱戦に次ぐ熱戦が展開され、第22回日整全国少年柔道大会の各学年の代表が決定した。

入賞者には「くまもん」デザインのトロフィーとメダルが授与され、メダルを手に笑顔を見せる子供たちを見て、早朝から一日大会運営に走った会員の疲れも飛んでしまった一日であった。



▲くま蒙のメダルを手にした入賞者

(広報員 一 雅貴)

ボランティア・その他

茨城県

がん患者支援チャリティーイベントに 本会も後援

厚生労働省・茨城県・茨城県医師会・本会などが後援し、筑波大学長が大会会長を務めるリレー・フォー・ライフ・ジャパン2013茨城(リレー・フォー・ライフ・ジャパン茨城実行委員会・(公財)日本対がん協会主催)が晴天に恵まれた5月18、19の両日、つくば市の研究学園前公園で約600人が参加(がん患者・がん経験者・その家族・支援者・医療関係者)して開催されました。

このイベントは、24時間がんと闘っている人々を応援し、不安や恐れ、孤独を感じる夜を乗り越える意味で、参加者は有志でチームを組み襷を繋ぎながら夜通し歩き、地域社会全体でがんと闘うための絆を育むことにより勇気と希望を与える場となっております。現在、世界20ヶ国以上で開催されておりますが、日本の場合

は運営費を除いた募金や協賛金は、日本対がん協会のがん撲滅活動に寄付されています。

このような状況下、我われ救護班は、筋肉・関節のコンディショニングブースを設置し、歩き続ける参加者の足・腰・関節の痛みに対しさまざまな処置を施しました=写真。

今回、県民の公衆衛生の向上に資することを目的に参加しましたが、とても貴重な時間を体験させていただきました。



(広報員 荒井健吉)

石川県

第62回金沢百万石まつり救護活動

第62回金沢百万石まつりが5月31日から6月2日にかけて開催され、メイン行事の百万石行列が行われた6月1日に救護支援活動を、また翌日は早朝から、行列のコースとなった中央公園周辺の清掃奉仕も実施しました。



▲救護活動本部

百万石まつりは、加賀百万石の礎を築いた藩祖・前田利家公の偉業をしのんで毎年開催される、市民をあげての祭りです。今年は加賀藩前田家の慶事を祝う「盆正月」の再現イベントもあり、観光客も含む大勢の人が集まるこの大イベントを安全に運営するために、毎年多くのボランティアが汗を流しています。特に利家公の金沢城入場を再現した百万石行列はこのお祭りの最大の呼び物であり、行列が行われた6月1日(土)は日本赤十字社石川県支部が救護所を設置し、体調を悪くされた方や怪我人、迷子搜索などの救護活動を実施。本会でも、金沢北支部を中心に延べ40名の会員がサポート接骨石川赤十字奉仕団として日赤石川県支部の活動を支援しました。当日は薄曇りの天候。金沢駅東口で



▲清掃ボランティア

行われたオープニングセレモニーでは、100名を超える太鼓演奏が見る人の度肝を抜きました。まさに百万石にふさわしい大迫力！今年は松本薫選手をはじめ、金沢ゆかりのロンドンオリンピック出場6選手も行列に加わり参加者は約2500人、沿道には約40万人の観客が集まりました。行列区間が長いことから沿道の3か所に救護本部を置いて、本部付きスタッフと観客の中や行列に沿って巡回する巡回班に分かれての救護活動にあたりました。この活動は、行列が始まった午後2時から踊り流しの終わる午後9時過ぎまで続けました。

清掃ボランティア会員の家族も参加

行列が行われた翌2日(日)、快晴の中54名の会員と家族が参加して、金沢市中央公園周辺の清掃ボランティア活動を行いました。前日はかなりのゴミが散乱していたはずなのに、集合した朝9時には、ほとんどキレイに片付けられていました。それでも念入りに探し歩き、約2時間の清掃活動をしたおかげで、かなりのゴミを収集しました。ゴミを集積した後、参加会員・家族の方々は綺麗になった街並みを改めて確認し、心地よい汗を拭きながらの活動に満足し解散となりました。

(広報員 佐藤裕之)

香川県

香川県浜田知事を表敬訪問

モンゴル国立健康科学大学エンフタイワン・トゥブシンバイル准医師が県内の接骨院(公社・香川県接骨師会所属会員)にて受ける

平成25年6月28日(金)、午前11時30分から香川県県庁にて浜田知事を表敬訪問し本研修の報告を行った。石原誠会長より浜田知事に日頃のお礼と今日の趣旨の報告。次に研修先会員、浪尾敬一学術部長より、モンゴル医療と日本柔道整復術との接点について、また日本柔道整復師会の国際活動状況などの報告があった。続いてトゥブシンバイル准医師より挨拶が行われ、研修内容について説明が行われた。彼は(公社)日本柔道整復師会が国際協力機構(JICA)の支援を

受けて行う指導者研修のために来日している。浜田知事はモンゴル国に大変興味を持たれ、高松空港から直接モンゴルには行けないのか、国外でも柔道整復師ライセンスは修得可能なのかなど、また国旗の意味はどんな意味があるのかという知事の質問に対して、モンゴル国旗の模様は魚の形が象徴化され、それには明るい未来に向かっての意味が込められているという説明があった。

トゥブシンバヤル准医師はうどんが大好きという話に話題が移り、参加者全員にっこりとした表情になった。香川県は「うどん県」として全国にPRされていることもあり、香川県紹介のパンフレット・うどん県のバッジなどが贈られた。彼は大変流暢な日本語を話す。独学で学んだという。ぜひ日本古来の伝統医学を学びモンゴル国に持ち帰って役立てていただきたいと切に願う。



◆県知事室にて



(広報員 武田雄児)

佐賀県

佐賀県総合防災訓練へ参加

風薫る平成25年5月26日(日)、鹿島市西部中学校会場・大町町総合福祉センター会場・嬉野市中央公民館会場(塩田町)において、当会救護ボランティア委員会「接骨・整骨ボランティア佐賀」より18名の会員がそれぞれの会場に分散して参加。



▲生活機能低下の予防運動



▲スタッフ一同(前列 保健師・後列 当会会員)

災害発生直後で初動時に手当を受けられない被災者の外傷(骨折、脱臼、打撲、捻挫、挫傷)を想定し、応急手当で訓練および生活機能低下予防運動を行い、保健師と合同で充実した訓練となった。

(広報員 小嶋利博)

広報活動 公式 Facebook ページ運用

国民・行政・保険者から柔整業界のあり方を問われている現在、新聞・TV・雑誌等メディアで受領委任払い制度に疑問符を投げかけられている。ともすればメディアの偏った情報のみを見ている国民は、柔道整復師が保険請求に取り組む姿勢や地域社会へのかかわり方を誤解する恐れがある。以前の国会では会員向けの広報誌発行が主な広報活動であったが、会員に情報を発信するのみでは現在の世の流れは変えられない。むしろ県民・行政・保険者に対して情報を発信することに、より力を入れるべきであると考え、我われを正しく理解していただくための広報活動に積極的に取り組むことにした。

そこで昨年は2つの広報活動に取り組んだ。

一つ目は、地元紙である熊本日日新聞に次の記事を掲載していただいた。

- ・熊本城マラソン救護をテーマに開催した本会臨床研究会の紹介
- ・熊本城マラソンでのテーピング、整骨キュア・

ケア活動の紹介

- ・「どんなときに整骨院・接骨院にかかるか！
どんなときに保険が適用なのか！整骨院・接骨院へのかかり方」を2回にわたり掲載した。

二つ目は、公式 Facebook ページを開設して、本会の公益活動を公開している。

救護活動や災害ボランティアなど、我われの活動を公開することで、本会がどのような地域活動を行っているのかを国民に理解してもらう機会となる。公式 Facebook ページを運用開始してから、本会の公益活動に対して、多くの県民や全国の柔道整復師、海外の方から多くの共感（いいね！）をいただいております。嬉しい限りである。

こうした地道な広報活動が本会、柔整業界に必要であろう。

ぜひ、全国の日整会員にも本会の公式 Facebook ページを閲覧していただければ幸いです。



<http://www.facebook.com/kumajusei>

←携帯電話でも閲覧できます。

(広報員 — 雅貴)

スポーツ選手の腰痛に対する 柔道整復的アプローチ

京都府 長尾 淳彦

はじめに

腰の痛みを訴えて接（整）骨院に来院するスポーツ選手は多い。

スポーツ選手の多くはどのような状況であろうと「今ある痛み」をいち早く取り除いて即、競技の現場に復帰して活躍したいという欲張りの要求をしてくる。

また、選手は練習や試合の結果がレギュラー獲得の評価となるので、指導者には痛みを隠していることが多い。安静が必要な期間を選手のみに説明しても、休まず練習参加する傾向がある。そうした意味で患者である選手だけでなく指導者・家族などとの密接な関係を構築して三者に理解させてから治療計画を立てなければ、治療の長期化は避けられない。

そうしたスポーツ選手に対しての接（整）骨院での初検から現場復帰までの流れの症例を示すとともに、著者が考案した腰痛帯バランスベルトを紹介する。

I. 初検と評価について

どのような姿勢で入室してきたかを診ることは非常に大切である。痛みを和らげるための防衛的な姿勢を診ることでその重症度が把握できる。（視診）

受傷日、受傷機転、既往歴などは問診によってしっかり取る。

問診の基本は【When：いつから痛い？ Where：どこが痛い？ How：どうすると痛い？ Why：どうして痛くなった？】である。

触診、徒手鑑別テストも慎重に行う。治療方針を決定する上では、関節可動域の制限や筋力の低下などがあるのならそれを改善することを考える。（周囲筋群のストレッチング、徒手抵抗テストなどによる）次にアライメントの問題である。もともと骨盤の前傾が強いために生じ

る腰痛であれば骨盤前傾を強くしている要因、例えば腹筋群や殿筋の筋力低下や背筋群や股関節屈筋群の緊張といった問題が考えられる。

スポーツ選手の腰痛の場合はまず、神経症状があるかどうかを診ることが大切である。

（SLR、ラゼーグ徴候、ブラガード、ボンネットテストなどによる）

そうした評価における注意点を考慮して治療計画を立てる。

II. 治療について

1. 安静

疼痛の強い時期は局所の炎症を軽減させるために極力安静を保つ。

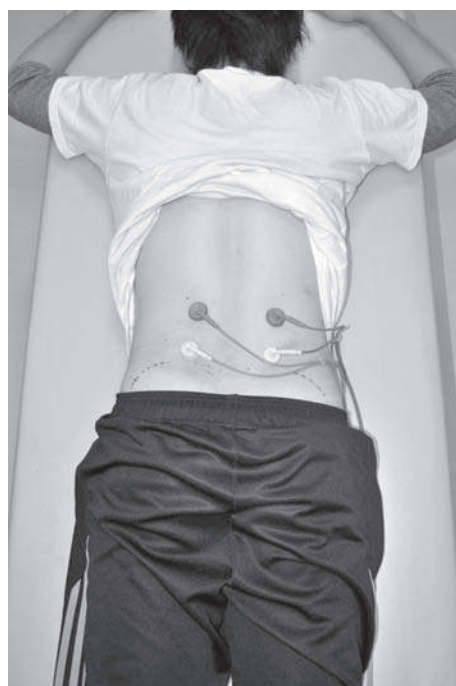
2. 物理療法について

1) 冷却療法

炎症の強い筋性の腰痛にはIcingを行う。

2) 各種電気療法

電気治療としてSSP療法や低周波療法を行い鎮痛効果、筋のスパズムの軽減を得る。



表層の筋・筋膜の緊張が強く、血流の循環の悪いものにはホットパックや赤外線などの温熱療法を行う。

3. 理学療法について

1) 装具療法

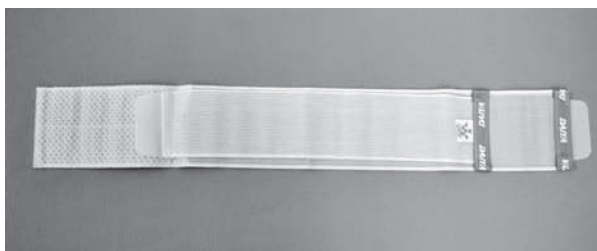
一般に使用されている腰部を支持するコルセットは、硬性なものを除けば椎間関節を基点とした同じ長さの補助ベルトを左右対称にした軟性のものが主流である。



ところが、臨床的には左右均等の腰部の痛みは稀である。こうした症例に対して、臨床の現場では晒（さらし）で引っ張り強度を調整して左右差を矯正したり、テーピングテープなどでアプローチしてバランスを整えたりして、圧迫・支持し、徐痛効果を得ていることは一般に知られるところである。

前述した左右均等の補助ベルトの引っ張り強度を調整することも試みたが、椎間関節部を基点としていることから左右差をつけたバランス調整は難しい。

こうした既存の左右均等の補助ベルトでは調整不可能な矯正を解消するために考案したのが【バランスベルト】である。



できる限りテーピングした状態を再現するために設計されている。よって幅・素材の軽量に工夫をして動きやすさとバランス調整の利便性に重点を置いた。

使用方法是

- a. 痛みのある箇所から補助ベルトを引っ張る方法
 - b. 痛みのある箇所を補助ベルトで覆う方法
- の2つがある。

装着して患者さんの楽な方を選択する。

重度な急性腰痛に対しては【バランスコルセット】がよい。



支持力強化のために幅・素材の硬度に工夫してある。補助ベルトもしっかりしたV状のベルトにして患部を保護する。

使用方法是

- a. 痛みのある箇所をV状補助ベルトで覆う方法
- がある。

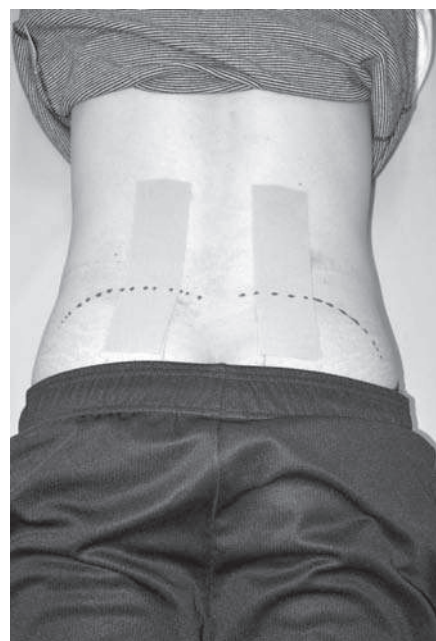
この【バランスコルセット】は腰部ならびに体幹のバランスを整えるために装着する。

右側に痛みが強い場合は右側に長い方の補助ベルト、左側に痛みが強い場合は左側に長い方の補助ベルトが来るようにし、患部を覆うようにする。補助ベルトの強弱はそのときの状況により調整する。

また、左右の股関節の可動域差がある腰痛（パトリックテストなど）に関しても可動域の狭い方に補助ベルトが覆うように装着する。

2) テーピング療法

固有感覚効果を出す薄手の伸縮性粘着テープ（幅5cm、長さ15～20cm）を起立筋から大臀筋（点線部）にかかるように貼布する。



3) 体操療法

炎症が治まり疼痛緩和してくると腰部周辺筋群の血行促進や柔軟性獲得のために患者自身によるストレッチを行う。(痛みと相談して行うことが大切である)

○両脚を揃えて行う

○脚をクロスして行う

Ⅲ. 現場復帰の時期・目安について

安藤⁵⁾は「現場復帰の判断をする上で大切なのは機能的問題として痛み、体幹の可動域、筋力が実際の競技動作の中で解決されているかを確認することが大切だ」と言う。施術所内だけでの評価で現場復帰の許可は再発したり、治療を長引かせると報告している。

こうした点を考慮して我われ柔道整復師もスポーツ選手の現場復帰には慎重にならなければならない。

文献

- 1) 松本 學 (2006) 腰部障害の保存的治療. 臨床スポーツ医学, 23.
- 2) 加賀谷 善教 (2000) 動きの中でのアライメントを観察するアプローチ. Sportsmedicine Quarterly, 26.
- 3) 長尾 淳彦 (2005) 臨床柔整テーピングの理論と実践. からだサイエンス柔整 Version, 62.
- 4) 長尾 淳彦 (1990) スポーツ・テーピング. 池田書店: 東京
- 5) 安藤 貴之 (2006) Jリーグ・プロチーム組織における理学療法的介入. PTジャーナル, 40: 431-438.

学術・生涯学習講習会開催のお知らせ

公益社団法人日本柔道整復師会「第21回 学術・生涯学習講習会」を下記の日程で開催予定です。ご家族やお知り合いの方もお誘いの上、ご参加ください。

日 時：平成25年10月13日(日) 午後1時開演

会 場：日本柔整会館 〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

入 場：無 料

公開講座プログラム (プログラム内容は変更する可能性があります)

- ・富山大学寄附講座報告会 講師／西条寿夫 富山大学大学院教授
- ・全国ボランティア活動報告 公益社団法人鹿児島県柔道整復師会
- ・特別講演 講師／山本一義先生 元ロッセオリオンズ監督
演題／「我が野球人生に思う」

お申込み：まだ若干名の余裕がございます。

電話にてお問い合わせください。

公益社団法人日本柔道整復師会事務局

TEL 03-3821-3511・FAX 03-3822-2475

『M-Test 経絡と動きでつかむ 症候へのアプローチ』

日整学術部員 大河原 晃

今回紹介する本は、医学書院から出版された「M-Test 経絡と動きでつかむ症候へのアプローチ」です。著者は向野義人氏・松本美由季氏・山下なぎさ氏です。M-Testは誕生から約20年が経過し、当初は「経絡テスト」と呼称していましたが、診断治療体系の確立を目指し「M-Test」と簡潔な呼称に改めたようです。

M-Testの特徴は、東洋医学の経絡経穴概論を基礎とし経絡を伸展させることにより、身体の動きに伴う症状から病態を把握することができます。動きに伴い症状の増悪もしくは誘発が見られる経絡を陽性とし、どのブロック（経絡）に異常が見られるかを診断治療に用います。そして経穴を指で軽く触れながら陽性動作を行い、症状の改善がみられるかどうかを判断します。有効と判断した経穴には、円皮鍼もしくは通常のディスポ鍼などを用いて治療を行うというのが一連の流れです。

さらに本書の特徴として、個々人の使い方の違いを考慮し章立てを工夫しています。M-Test治療をすぐに実践したい読者には、「第3章 M-Testの実際（基礎編）」を読むことで、すぐに治療が行えるようになっています。

一方、M-Testを深く理解してから始めようとする読者には、「第2章 理学的背景（基礎編）」を読み、基礎理論を理解した上で第3章、第4章へと読み進めることで、より一層理解が深まると思います。

先端医学による医療の高度化はさまざまな疾患の治療を可能としつつありますが、その

一方で治療が行えない疾患に悩み、苦痛を強いられている患者がいるのも事実です。世の中に置き去りにされ、身体的・メンタル的ケアを必要とする人々が年々増え続け、さらには超高齢化社会の到来がこの事態に拍車をかけています。著者は我が国の現代医療と人々の抱える問題を打破するため、現代医療に新たな風を吹き込む必要があると考えています。東アジアの智慧である経絡とスポーツ科学の実証的・知的枠組みを融合させたM-Testは、この現代医療の先兵として活躍することを著者はとても強く願っています。ぜひ御一読を。



発行社：医学書院

著 者：向野義人 松本美由季 山下なぎさ

価 格：3,780円

第7回日整柔道「形」講習会が開催される

総務部



平成25年8月3日(土)、4日(日)の2日間にわたり講道館において、公益社団法人日本柔道整復師会主催による標記講習会が全国都道府県社団から推薦された20組40名の会員が参加し開催されました(=写真)。

講習会1日目、午後1時から行われた開講式は、木山時雨副会長の開会の辞で始まり、工藤鉄男会長は、猛暑の中での受講に対する謝意と「形」の重要性などについて挨拶しました。次いで、司会の和田秀樹総務部員が講師の先生方の紹介を行いました。

講習会では講道館指導部次長の佐藤正八段と向井幹博七段が「固の形」「極の形」を、講道館女子の梅津勝子八段、内海まゆみ五段、高橋広美四段には「柔の形」を午後4時までご指導いただきました。



▲日整大会形演武者

2日目は、午前10時から昼食をはさみ午後2時まで講習が行われ、熱心な受講者は著しく上達されました。

閉講式では、木山副会長が2日間の受講に対し敬意を表すとともに講師の先生方には感謝の言葉を贈られました。それを受け講師の佐藤先生は、講評で「今回の講習で得たものを更に修練され、それぞれの地域で活躍されることを期待しています」と、申されました。また、梅津先生は「楽しく講習をさせていただきました。『柔の形』は『投の形』と違い、どこまでも柔らかく美しくあることを心掛けて練習してください」と、述べられました。

続いて、佐藤先生と木山副会長が、受講者代表の春日井和幸会員(愛知県)と真中進会員(茨城県)へ修了証ならびに認定証を授与しました。

最後に豊嶋良一総務部長が閉会の辞を述べ、2日間に及んだ第7回日整柔道「形」講習会のすべての日程は成功裡に終了しました。

なお、10月14日(日・祝)に開催される日整全国柔道大会「形」演武者には次の4組が選考されました。皆様方のご健闘をお祈りします。



▲極の形の指導



▲柔の形の指導

「極の形」

(取) 中澤 伸一 六段 【北海道】

(受) 中澤 正 五段 【北海道】

「固の形」

(取) 夫馬喜久治 六段 【愛知県】

(受) 春日井和幸 五段 【愛知県】

「柔の形」

(取) 真中 進 六段 【茨城県】

(受) 青木 竜也 五段 【茨城県】

(取) 相羽 秀昭 五段 【愛知県】

(受) 森 正仁 六段 【愛知県】

平成25年度公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧

	担当都道府県	学会名称	講師・演題	開催予定日
近畿	(公社) 兵庫県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第38回近畿学術大会 兵庫大会	◎ 機能解剖で斬る 運動器疾患 ー解剖所見と画像所見による骨折・脱臼、軟部損傷のメカニズムー 愛知医科大学医学部教授 中野 隆先生	10月27日(日)
大阪	(公社) 大阪府柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第7回大阪学術大会		11月10日(日)
東海	(社) 三重県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第48回東海学術大会 三重大会	○ 「夢を追いかけて」 シドニーオリンピック・シンクロ ナイズドスイミング銀メダリスト 武田美保先生	11月17日(日)
関東	(公社) 山梨県整骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第36回関東学術大会 山梨大会		平成26年 3月9日(日)

◎印の学術大会は、どなたでも無料でご参加いただけます。

○印は、特別講演のみどなたでも無料でご参加いただけます。

日 整 文 芸

(作品は1人3首〈句〉までといたします)

【短 歌】

山梨県 明風 散人

回想

居合道窮めし範士の風貌は

猛けからずして飄々たり

人柄の知れる肩書き無き名刺

自筆毅然と滲む風格

千日の修錬勝敗その一瞬

虚心になれと範士の結ぶ

奈良県 長谷川浩行

聖域

四季をりに景色を目にし学びつつ

命尊ぶつつがなく見る

ぬるむ水小川の流れゆるやかに

水草浮び春陽まぶしや

霊験のあらたな山に踏みいれば

苔におおわるたたずむ仏

【俳 句】

群馬県 鈴木 乗風

蚊遣香

万緑や信濃一夜の癒し旅

酔ひ書の巻紙にじみ蚊遣香

ひとりまた逝きし別れや夕立雲

福井県 田上 滋良

万緑やカモシカの目の深緑

坂道をまっしぐら駆け麦の秋

鉄線の雨と戯むる日曜日

福岡県 山下 智章

蝉しぐれ雨の音にも負けずけり

【川 柳】

北海道 阿部 篤夫

クラス会

クラス会幾星霜や再会し

歌ったよ楽しかったよ時忘れ

さよならと肩をだきあう七十路中

石川県 東 勝一

紅顔の九体阿弥陀に心解け

幾峰を遥かに望み心澄む

心口意が一つとなりて恵比須顔

「日整文芸欄では一般の方々からの投稿を募集しております」

広 報 部

日整文芸は、会員の方に加え、一般の方々からも「短歌」「俳句」「川柳」を募集します。一般の方の投稿は、日本柔道整復師会会員を通じて、都道府県名、紹介会員名および連絡先、作品提出者名を明記の上、ご応募してください。

日整文芸を通じて読者の皆様とよい交流の場となれと願っております。

作品は会員と同じく1人3首〈句〉までといたします。多くのご応募をお待ちしております。

宛 先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会広報部
TEL : 03-3821-3511 FAX : 03-3822-2475
E-mail : kouhou@shadan-nissei.or.jp

編集後記

■8月4日(日)、学校法人花田学園東京有明医療大学において、「第5回健康柔体操指導者養成講習会」が開催された。平成3年に「シルバー柔道体操」として誕生し、平成10年に「健康柔体操」としてネーミングも新たにバージョンアップされた。その後、平成15年、平成20年と指導者養成講習会が開催され、今回更なるバージョンアップを図り「健康柔体操」として、柔道整復師を通じて普及活動を推進することになった。

柔道整復師が国民に積極的に推進が図れる事業の一つとして、誰にでも簡単にできる体操がキャッチフレーズとは言え、もっともっと多くの方が講習会に参加し指導者としての動作や心意気(呼吸法)を受講すべきではなかろうか。

(多毛家)

■巻頭言で福島県出身学生の柔道整復師養成施設に入学した動機が書かれていました。東日本大震災で被災し避難所で生活していたときに、日整会員の方々が業務を休み、被災住民のために救護ボランティア活動をしている姿を見て感動し、自らが柔道整復師になって世の中に貢献したいと思ったから、ということでした。

全国で展開されている公益活動がいろいろなところで柔道整復師の良い証となっていることを嬉しく思います。このような素晴らしい柔道整復師の活動を現場にいる方々だけではなく、広報誌と日整のホームページを通じて全国にお伝えできればと願っています。

(家真舵)

■私事ですが、最近特に月日の経つのが早く感じるような気がしています。以前の編集後記にも書きましたが、自治会副会長となり、今まで携わったことのない仕事が入り込んできていて、慌てふためいています。その中で、先日第1回自主防災会議を開きました。この目的は市役所に対して、町内会の自主防災意識の高さを知ってもらう一つの手段と思い計画をしました。

住民40人が参加し、市防災課から2名の講師

が派遣され、約1時間30分ぐらいでしたがお互いの意思疎通ができ、普段話したことのないお役人との会話の中で、市側の解釈と住民側の解釈の違いなどが良くわかり、お互いに良い雰囲気の中で意見を出し合いました。住民からは、「市役所の考え方も分かって、自主防災の大切さもよく理解できた」と第1回目にしては、まずまずの手ごたえを感じました。

これも広報活動の一環として、自治会を引き受けたからには、このようなことに顔を出していき最終的に「柔道整復師とは」についての啓蒙に繋がるようなことをしていけたらと思いました。

(和座尾)

■福井県の県民公開講座の記事で、中京大学スポーツ科学部教授の湯浅景元先生が「ひざ・腰・肩が楽になる一生健康7秒体操」と題し、県民公開講座が行われた。

関節や筋肉を柔らかくするためのストレッチ法や、痛みの予防につながる筋力トレーニング法も実演を交えて行い、椅子に座ったまま、演題のとおり、たった7秒で手軽にできるものを紹介された。帰ってからすぐに家庭生活で取り入れられることで大盛況だったが、もう一度講演内容を確認するビデオなどが、今回湯浅教授が所属する大学との関係で、録画・録音することが禁止されたのが非常に残念だった。

(魅家下)

■骨折と脱臼の治療を母国で指導する。そのために日本で学んだモンゴル人准医師の3人。その研修閉講式と懇親会が8月9日に東京ドームで開催された(今号1~7頁)。この事業は国からの支援で日整が2006年から展開している。懇親会で共同通信社代表取締役の古賀尚文氏は、乾杯の挨拶の中で、開発途上国の医療技術向上に向け、仁慈の心をもって取り組んでいる日整にメロメロになりかけていると述べ、笑いと称賛を誘った。各方面の来賓の方々からも異口同音に感銘しているとの称賛を浴びた。こうしたグローバルな大事業には多方面からの協力と支援が必要であることを改めて感じた閉講式と懇親会であった。

(多夢楽)

〈表紙解説〉

『ファンタジー』

日整広報部員 竹内 康

柔整業界を取り巻く環境は厳しいものがあり、諸々の問題を解決していくためには、役員を中心に全会員の努力が必要だ。それにしても柔道整復師は夢がなさすぎる。厳しい環境だからこそ、将来発展への夢を見てみたい。そんな気持ちを持ちながらシャッターを押し続ける間、手を入れてしまった。常識的に手が邪魔なはずだが。



◆原稿締切日は奇数月20日です◆

〈投稿される会員へお願い〉

ワードまたは一太郎などで作成された原稿の場合は、そのファイルをメールでご送付ください。

★編集会議の結果、投稿の内容により未掲載となる場合もありますのでご了承ください。また「投稿」の場合、必ず日整広報原稿と記入または入力してください。

★投稿文は各都道府県事務所を通して応募ください。

★原稿・投稿者名にはふりがなをお願いします。

宛先：“日整広報” <kouhou@shadan-nissei.or.jp>

日整はつらつ！発行日と原稿締切

※原稿の締切厳守をお願いします。(広報部)

号 数	14号	15号	16号	17号	18号	19号
原稿締切	9月20日	11月20日	平成26年 1月20日	3月20日	5月20日	7月20日
発 行	11月20日	平成26年 1月20日	3月20日	5月20日	7月20日	9月20日

「日整はつらつ！」VOL. 13 SEP 2013

平成25年9月20日発行

公益社団法人 日本柔道整復師会

〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

電 話 (03)3821-3511 (大代表)

発行人 工藤 鉄男

編集者 永田 官久

制作・印刷所 東京リスマチック株式会社



柔道整復師倫理綱領

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名譽を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓つものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力に努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽す。